

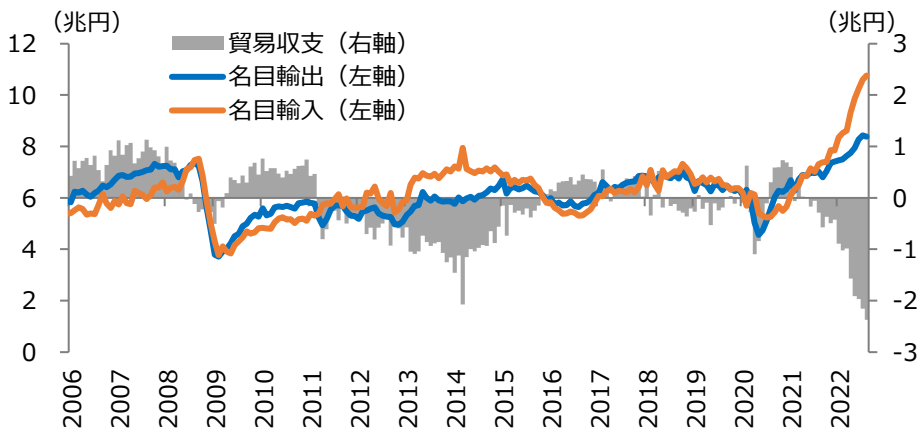
日本

貿易統計 (2022年8月)

円安・資源高により貿易赤字は過去最大に

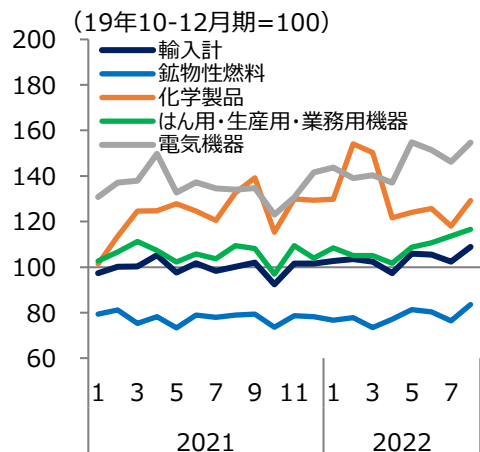
政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

1 名目輸出入・貿易収支

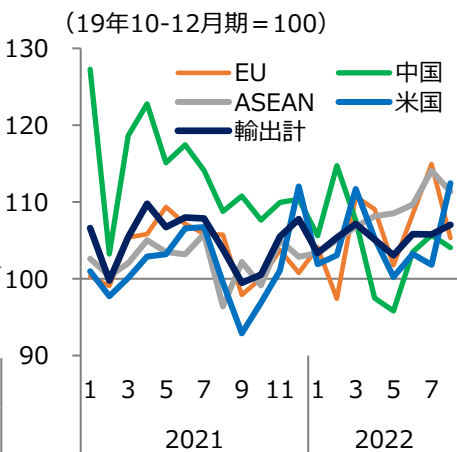


出所：財務省「貿易統計」

2 実質輸入：財別



3 実質輸出：地域別



注：当社による実質・季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 2022年8月の貿易収支（季調値）は▲2兆8,173億円と13カ月連続の赤字となった（図表1）。赤字幅は、2014年1月を上回り比較可能な1979年以降で最大である。
- 貿易赤字拡大の主因は、名目輸入額の増加だ（22年初対比+27.5%）。特に「鉱物性燃料」の増加が顕著であり、円安・原油高により輸入額が押し上げられている。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸入（当社試算、季調値）は、22年初対比+3.6%と名目額に比べ緩やかな増加にとどまる（図表2）。財別にみると、「電気機器」、「はん用・生産用・業務用機器」が増加傾向にあり、設備投資等、内需拡大を反映している。「鉱物性燃料」は、実質ベースでも増加しているが、コロナ危機前を下回る水準にある。
- 実質輸出（当社試算、季調値）は、一進一退の後、6月以降は持ち直し傾向だ（図表3）。ASEAN向けの好調に加え、8月は米国向けが大幅に増加した。米国向け輸出は、輸送用機器が増加しており、半導体不足緩和から自動車生産が徐々に回復していることが背景にある。中国向けは、上海市ロックダウンの下押しは剥落したものの、ゼロコロナ政策の影響から緩慢な回復にとどまる。

基調判断と今後の流れ

- 円安・資源高による名目輸入額の増加から、貿易赤字が拡大している。資源高は足元で一服しているが、9月に入り円安は一段と進行し、対ドルで24年ぶりに140円台へ下落した。外貨建て取引比率は、輸出（約6割）より輸入（約8割）の方が高く、円安の影響で当面は貿易赤字が続くとみる。
- 実質では輸出入とも緩やかに増加している。実質輸入は、経済活動正常化に伴う内需拡大を受け増加傾向が続くとみる。実質輸出は、ASEAN、中国経済の回復から底堅く推移するとみる。利上げ加速に伴う米国経済減速は輸出の逆風だが、供給制約下で先送りされた自動車の繰り越し需要が下支えとなろう。